

第32回日本義肢装具学会学術大会が10/15～16に札幌コンベンションセンターで開催され、当院理学療法士がポスター発表しました。



発表演題は「作製装具の違いによる歩行到達度およびFIM利得についての検討」です。

学会発表を通して全国各地の病院関係者及び理学療法士の方々と交流・意見交換を行い、有意義な時間を過ごすことができました。

当院は積極的に装具療法に取り組んでいると認識ができた反面、改善すべき点やさらに取り組むべき点など、多くの課題も残されていると感じました。

通常の臨床の場面では話す機会が少なかった義肢装具士の方々とも、昨今の装具の情報を頂くことができました。

患者様の状態に合わせた装具を提供することで早期の自宅・社会復帰の支援ができるよう、今後の臨床に活かしていきたいと思えます。